

I.R.S. Doc. No. 3345-Annex 1

P.S. 3345

第三防衛師團(臺北部隊)本部

六吋砲用彈底及砲耳が海岸直達道三台に設置ス
之(多分三台)

四七吋野砲砲列

数台可動式(護護輪兩隻物且動車)探照燈

十吋(反射燈)直達一五。燭光

機關銃及高射砲、後者二台、之に牽引自動車
牽引、牽引車二設置。

五。名、守備兵團兵合(一九四〇年)

概算二千名、陸軍部隊一九四二年二月三到着。

見張塔

施設班

第四施設部、合遣隊

糧食班施設部、合遣隊

代エがソリ、油槽(振装之ミミ)一以前「ア」野

上呼之タ浅瀬三三三三三三、南力二二二。

タニ野蔵所

糧食班頭及、所収蔵

第四陸軍軍需部支所

第四補給部支所

第三軍事郵便支所

「ヤ」上(「三」下「三」)

中利二機、機縦可能、格納庫夫々、持ツ三箇

所、若陸場隣接建築物、擬装サレ

I.P.S. Doc. No. 3345-1mer

p. 6

(「三三」上陸攻撃部隊(輸送機))

三菱機二機三機(飛行場同三機)

工場三飛行場用動力機(三機止)

第六防備隊(分遣隊)

「アリス」(「三三」島(三三島))

海軍無線電信所

東端(「三三」島(三三島))三水上機基地

当地三飛行隊

施設班

兵器係格校(複設)配属

第四施設部(分遣隊)

横須賀施設部(分遣隊)

吳海軍工廠(分遣隊)

第六防備隊(分遣隊)

「ウオジエ」#

海軍無線電信所

觀測所

第六防備隊分遣隊（「ウオジエ」分遣隊）

防備アリ（報告済）。

監視塔アリ。

着陸場（一九三七年完成）海軍謀報所
（四九）。（当地ニ飛行隊、一九四一年六月）。

施設班。

兵器係持校配属。

第四施設部分遣隊

横須賀施設部分遣隊

横須賀海軍工廠カラノ分遣隊

吳海軍工廠カラノ分遣隊

「油槽」。

深水埧十頭

第四補給部支所。

第四陸軍軍需品部支所。

「マロエラ」#1（「タラオ」島）

海軍無線電信局

第六防備隊分遣隊（「タラオ」分遣隊）。

「タラオ」基地。

監視塔。

I.P.S. Doc. No. 3345-Annex 1

着陸場建設中(一九四〇年)。

施設班。

第四施設部令遣隊

貯藏設備。

軍醫監監督、衛生隊

封入(A)

本通信分類、一九四七年十月十四日附連

續番号第一五三七三年第三頁、命ニ

依り秘密ニマツルト変更。

~~姉~~

「クエリ」#(「ロ」島)「クエリ」及「ルオ」両所、施

設、(「クエリ」及「ルオ」)海軍無線電信所

「ルオ」其基地。空軍活動、一九四一年六月(「クエリ」

及「ルオ」)第六防備隊令遣隊。

「クエリ」ノ第六防備隊海岸砲台

「ルオ」ノ第六防備隊海岸砲台

(「ルオ」)施設班

配屬造兵部將校(四名或、四名以上)

(「クエリ」及「ルオ」)第四施設部、令遣隊

(「クエリ」及「ルオ」)横須賀施設部カラ、令遣隊

「エニウエ」#

海軍無線電信所

P. 8

1. P.S. Doc. No. 3345-A annex 1

測候所

(「エニウエトウ」分遣隊) 第六防備部隊、分遣隊
要塞ヲ設ク(報告済)

(一九三五年昭和十年)「築造進行中」潜水艦基
地

若陸揚、此處 (?)

第四施設部、分遣隊(「ハリ」島)「スリン」島ニモ
分遣隊アリ

吳海軍工廠ヨリ、分遣隊

「ホカー」(「マオ」島)

海軍無線電信所

「ビキ」

要塞?

オニ子基地、徴号アリ?

「ロジエラツ」

海軍無線電信所

「オニ」基地、徴号アリ

過ちノ演習中「オニ」ニ實際使用サル

「ロジエラツ」

海軍無線電信所(報告済)

「エニウエトウ」

海軍無線電信所

測候所

海軍人員此處ニ報告せん

P.10.

I.P.S. Doc. No. 3345-Annex 1

「ウオット」

海軍無線電信所（報告済）

此、通信、分類ハ

一九四七年十一月十四日附連続番号第一五三七三
号第三三頁、命ニ依リ、秘密ニ「ア」ト変更。

同封物（A）

I.P.S. Doc. No. 3345-1 Mex /

林茂

ノヤ工

海軍無線電信

ノヤ工

(一九一四年三月八日 - 三月十一日 東京)

海軍無線電信 (ノヤ工)

當地 = 海軍無線電信

第四土木分遣隊

ノヤ工

井

海軍無線電信 (ノヤ工)

海軍無線電信 當地 = 海軍無線電信

當地 = 海軍無線電信 (ノヤ工)

ノヤ工

海軍無線電信

當地 = 海軍無線電信 (ノヤ工)

當地 = 海軍無線電信 (ノヤ工)

ノヤ工

ノヤ工

海軍無線電信

測候所

本通信期間：(一九一四年三月十日)
時、海軍無線電信 (ノヤ工) 當地 = 海軍無線電信 (ノヤ工)
二、當地 = 海軍無線電信 (ノヤ工)

ノヤ工

井

海軍無線電信

電波探知器 (ノヤ工)

測候所

p. 11.

トウラク。#

「ヨカシ」島実端ニ別ノ基地アル由

海上機施設……「航空基地」

第十一航空隊

地雷及水雷貯藏所（アル由）

土木工作部

サクトモニ名ノ兵器特技ノ配属アリ。

第四土木工作分遣隊（「ラシカル」島ニ活動）

横須賀土木工作分遣隊。

油貯藏所（アル由）

陸軍貯藏（彈藥）部支所

第四補給部支所

第四陸軍郵便支局。

本通信ノ類別ハ一九四七年十一月

十四日附ノ第一五三七五号第三頁

ニヨリ非難別ニ変更セラル

海軍無線電信所

電探器アル由

測候所

第四防備軍司令部。

第四防備軍分遣隊（トウラク分遣隊）

「七」號基地（「トウラク」航空基地）

一九四一年十二月陸軍部隊当地到着「トウラク」

及「トウラク」ニ分割千名ト推定サル。

J.P.S. doc. No. 3345-Annex 1

P.14

要塞化

「上」島ニ陸上機飛行場.....アリ

島南端ニ別ノ陸上機飛行場

空軍「上」島ニ到着(一九四五年六月)

海上機施設

地雷及水雷貯藏所アリ

「機」庫防衛ノ用意

海軍統治司令部第四土木工作隊

第四土木工作支隊。

封入物(A)

トック

トック (續子)

土木工作部。

横須賀土木工作分遣隊。

吳海軍工廠ヨリ、分遣隊。

燃料貯蔵所 (アム由)。

委任統治司令部第四軍事貯蔵(軍需品)部。

第四軍事貯蔵(軍需品)部支部。

委任統治司令部第四兵站部。

第四兵站部支部。

委任統治司令部軍事郵便局。

プルワット。(パルト)(エンデルビイ)

海軍無線電信所。

第四防備軍令遣隊。

オロル。#

海軍無線電信所。

第四防備軍令遣隊。

ニモトシク。# (ヌウエト)

海軍無線電信。

第四防備軍令遣隊。

(海軍)「航空基地」。

ウオレイ #

海軍無線電信所。

水上機基地ニ在ル、自報ゼール。

ウリチ。#

P.116

前進艦隊投錨地。

「商業無線電信所」(JPF)。

海軍與衆電信所。

「作戦上陸地」ト報ゼラル。

本通信、類別八一九四七年十月十四日
附才一五三七三号才三二頁三ヨリ非類
別ニ変更セリ。封入物(A)

海軍無線電信。

觀測候所。

海軍要員此處ニ在リト報告セル。

要塞化セリト報告ナル。

「カシ」の近辺＝陸上機飛行場(今川)。

水上機作戦基地トシテ廣ク使用サレ居リ。

前橫濱航空隊(?)。

土木工作部。

第四軍貯藏(軍需品)部支所。

$$\frac{1}{10} \text{ 大 } \cdot \# \left(\frac{1}{10} \text{ 大 } - \frac{1}{2} \right) = \frac{1}{2} - \frac{1}{10} = \frac{4}{10} = \frac{2}{5}$$

海軍無線電信所 (少尉元二)。

高周波電探器。

合同營業信号部。

測候所。

司令部第三防備部隊(基地部隊)。

司令部第三防備隊。

第三防備隊分遣隊。

駐在陸軍武官(委任統治海軍本部)。

推定五年、陸軍部隊一九四一年二月より到着。

陸軍駐在武官、海軍ト連絡。

観測塔若ク射撃指揮所及砲床ヲバベルケ

アツ島、西側ニ建設中(六吋砲数門輸送船ヨリ

卸サレ)。

全部燈台、観測塔若ク射撃指揮所トシテ使用サ

レ居ルモノト信ゼラル。各燈台近ク砲台設置サレ居

ルモノト信ゼラル。

コロル島東端ノ丘上ニ航空機發見装置ヲ附ケ

アリ。

コロル島、高丘南方ニ彈藥貯藏所。

ベリリエー島ニ兵舎及砲床。

コロル島西端及バベルケニアツ島東南隅ニ兵

舎。

アラカベサニ島ニ水上機施設及着水場。

ベリリエー島ニ水上機施設及着水場。

ベリリエー島ニ海軍基地。

戦闘機翼一ベリリエー。

第四航空隊……才十六水上機隊。

J.P.S. doc No. 3345-Annex 1

P. 18

才四航空技術部。

前千歳航空隊(才四航空隊?)。

地雷及び水雷貯藏所(アムル)。

土木工作部。

少クモ四名、兵器將校所屬ス。

才四土木工作分遣隊。

横須賀土木工作分遣隊。

吳海軍工廠ヨリ、分遣隊。

本通信、類別、一九四七年十一月十四日附

才五三七三号三三頁ニヨリ非類別ニ変更

セ

同封物 (A)

秘一密

ハラオ井 (續キ)

オ四軍所蔵(彈藥)部、分所

オ四兵站部、分所

マカル島西南側ニ「相」(油貯藏所)

「ソ」ル水道ニ前進艦隊投錨地

又「ビ」ンゲル島ニ潜水艦基地(「ソ」カ建造中ノ由)

海軍水路部、分所

軍事郵便局オニ分局

(「レ」ン、リーフ井)

海軍無線電信所

「ハ」レン、リーフ水上飛行機基地ニ

建設活動見ウケラル

「ト」井(「ロ」ード、ノース)

海軍無線電信

石油タンク五個見受ケラル

「カ」レン、リーフ井(「カ」ビニカラマニヤ)

海軍無線電信所

オ四陸軍部、分所

オ一三島(小笠原諸島)(委任統治諸島ニ非ス)

又島井

海軍無線電信所

高岡一電線局

陸軍守備隊

要塞化

海軍航空隊(水上機作戦基地)

機電貯藏庫(元由)

I.P.S. Doc. No. 3345-Annex 1

土木工作部。

マカス島群(南島、島)(委任統治島ニ非ス)

海軍無線電信所。

電探器局(下)

測候所。

マカス島分遣隊。

マカス島基地。

陸上飛行機飛行場(?)……(下)

本通告、類別一九四五年十月十四日

附才五三七三号第三頁ヨリ非類

別ニ変更ス

同封物(A)

マリア諸島。

ウラカス。

陸上機飛行場(?) (アル由)。

ミウク。

水上機(?) 及潜水艦基地(?) (アル由)。

水上機及潜水艦作戦ニ使用サレ。

要塞化サレ(由)。

油貯蔵所(アル由)。

バガン#

海軍無線電信所。

当地ノ臨時飛行場ニ母艦機ヨリ使用サレ。

土木工作部。

P.20

J.P.S. doc. No 3345-Annex 1

P.21

オ四土木工作 令遣隊。
横須賀土木工作 令遣隊。
サイパン 井
海軍無線電信所。
高周波 - 電探总局。
測候所。
要塞砲 - 重砲 - 高射砲 - 照明燈 (五由)
聯合見張所並ニ沿岸砲台 (管理) 所
(ガラン、ニアタニ、ワウラカ、スナスス、ミナガ島)
其他。
陸軍守備隊 - 兵營 - 倉庫。
オ五防備隊 (基地軍) 司令部。
オ五防備軍司令部。
オ五防備軍 令遣隊。
サイパン 海軍 航空隊 - アスリートニ、陸上機飛行場。
水上機施設。
オ五航空隊 (元不更津陸上機飛行中隊) 員数
又 (殺数 / 全舎ニカ?)
オ五航空技術部。
機電及び水雷貯藏所 (二由)
土木工作部。
オ四土木工作 令遣隊。
横須賀土木工作 令遣隊。
吳海軍工廠ヨリノ令遣隊。

J.P.S. doc. No. 3345-Annex 1

P. 22

天竺國一領三ノノ島嶼等
新羅國王不王非ノ島嶼等
三ノ島

野油所ノ由
浮水皮止島

才四軍野藏(一軍野藏)等

才四兵站部

才四兵站部支部

才一軍事郵便支所

本通信、類別、金印七年十月十四日附一五三七

二P三三ヨリ非類別、改定文

同封物(A)

一六番一會

J.P.S. doc. No. 3345-Annex 1

P. 23

外一
二二
三

海軍無線電信所

「聯合監視所及沿岸砲台(指揮)所」

要塞化せらる。

第五防備軍司令部

土木工作部

第四土木工作司令部

矢野將校(又、複教)配属す。

第四土木工作司令部

横濱頭土木工作司令部

外一
二二
三

海軍無線電信所

要塞化せらる(由)。

防衛工事進行中(由)。

潜水艦基地(?) (凡由)。

本通達は類別一九四七年十月十日

附 第一五三七三号、第三十二頁より

非類別に変更せらる。

封入物 (A)

~~林一守~~

六 各陸軍師団・旅団・連隊・其他 概算兵力

(4) 第四(「李生」)艦隊 (イ、部参照)

(5) 陸上 海軍兵力

第三防備隊 (司令部 バイ)

第五防備隊 (司令部 サイ)

「ニ」及「ミ」各司令 マリナ 群島、他、島嶼
ニ駐屯スル第五防備隊、令遣隊 (ロ、部参照)

第四防備隊 (司令部 トウ)

東部及「中」部カマリナ 群島、外部
島嶼ニ駐屯スル第四防備隊、令遣隊
(ロ、部参照)

第六防備隊 (司令部 シヤル)

「ミ」カマリナ 群島、外部島嶼ニ駐屯スル
第六防備隊、令遣隊 (ロ、部参照)

(6) 陸上 陸軍兵力

「バ」及「サ」各司令 トウ、ボ、ミ、ニ、ロ
(ロ、部参照)

(7) 海軍工廠令遣隊 (労働者ニ出立) (ロ、部参照)

土木工作令遣隊 (労働者ニ出立) (ロ、部参照)

(木) 海軍航空兵力。

相當に淺く、精確に組織せしむる
決定に居る。次、表、信に足る断片
的報告、命、結果を来よりしむ。

現在、陸上航空機基地擴張並に建設工事を成
し、オランダ、之ヲ九六—九七型戦闘機、
機、長距離爆撃機、及戦闘機用として
使用せしむるに信あり。此等、航空機、情勢に
應じ得べき数ヲ以て此等基地に飛翔せしむ
べし。

本通信ノ類別、一九四七年
十一月十四日附第一五三七三
号第三二頁ニヨリ非類別
ニ変更せしむ。

同封物 (A)

新編

二、委任統治領に於ける進行中、行動

「ブル」ガボニ艦隊ヲ指揮セル時、「オニ」市四艦隊
 (東部委任統治領位置に「オニ」太平洋横断海軍油
 槽船上連絡して無電通信妨害活動ヲ強化シ、九四
 年八月下旬より九月初旬「オニ」委任統治地域に於て
 航空兵科(空母並ニ沿岸基地航空機)及び潜水艦隊ヲ
 北部「ギルト」諸島附近より西進中、「オニ」艦隊、表々
 ス「假想敵」艦隊ヲ搜索し所在ヲ確定シ攻撃スル爲
 ニ使用シテ演習ヲ行フ。一般防衛隊ハ「ボネ」トラフ
 間、如何ナクモ演習、詳細及結果、不明ナリ。
 一九四〇年十二月、次、艦隊再組織、降ニ新立潜水艦
 隊(第六)が組織サラルト、意味深イ「トデア」(A部参
 照) (商船ヲ取テ)海軍予備補助艦、委任統治領
 へ移動ガソ、後明白ニツタカウ「オニ」軍備強化促進
 決定、明カニ三國條約、露明ト共ニ爲サシ。
 一九四〇年末頃カウ「オニ」人員資材及補給品、ツ、多力
 漸進的ニ増加シ一九四二年七月六日約四一乃至四十五隻、
 船舶ガ「オニ」本島 委任統治領間ヲ絶エテ往復ス
 ニ至ラフ。

P. 26

分析ニヨル船舶、約六十五%が東「カリ」諸島及
 「マシヤ」諸島行ナリ。

相対ナル航空活動ガ「サイバ」ヨラ「トデア」「ボネ」
 及「ギルト」地域ニテ明カデア。コノ地域ニ近ヅク
 外國汽船ハ航空機、偵察及び偵察機爆撃機及

戰國時代、信濃、關東、安土、京都、上野、東京、
「キルバ」上野島(多ク、上野島)「上野」上野島、偵察
飛行ヲシテ。

沿岸機関及行動ニ関スル、
一九四一年、初教、月間ニ、軍事発展、
管理及拡張、爲、一行政機関ヲ設置サシム事トガ証據
ニ示サレテ居ル。又、委任統治領内、先ニ管理ニ當ツテ
陸多親機関即チ、機關、組織ニ平行、但シ之
ト、獨立、多ク取ツテナル。又、從來、帝、委任統
治領行政、中心アリ(今、外、行政、キサウ、ア、ウ、ガ)
委任統治領内、施設、及、軍、需、行政、其、上、今、
「トラウ」中心アリ。

諸島、同、施設、書(A)
「トラウ」一、明、カ、施設、部、隊、及、他、
夫、明、カ、施設、部、隊、及、他、
領、及、所、分、遣、隊、同、様、上、島、同、様、及、他、
ヲ、持、テ、居、ル。又、施設、部、隊、及、他、
編、成、ナ、リ、一九四一年、一月、後、半、ニ、機、關、及、他、
ラ、二、月、ニ、後、半、委任統治領内、及、他、
シ、亦、委任統治領内、主要、諸島、ニ、支、所、ヲ、持、ツ、及、他、
品、部、(軍、需、品)及、他、補、給、部、隊、之、附、隨
ニ、居、ル。

及、他、及、他、及、他、及、他、及、他、及、他、及、他、
官、及、他、及、他、及、他、及、他、及、他、及、他、
官、及、他、及、他、及、他、及、他、及、他、及、他、

Do
-8
Pm

第三防衛戦隊に四隻、潜水艦「ヒラノ」型
 の老艦を配属して居る。他、防衛戦隊を編成
 セントスル、ガ「オリゲ」、意國「スル」等。

[Faint handwritten notes at the bottom of the page]